

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 札幌こども専門学校

学科名：こども総合学科

授業科目名	単位数
英語	2
保育原理	2
社会福祉	2
保育の心理学	2
子どもの食と栄養Ⅰ	1
健康	1
合計	10

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	英語		
必修選択	選択	(学則表記)	英語		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	保育の英会話		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	・ 保育に必要な英語の基礎を身につける。 ・ 英語でのコミュニケーションに慣れる。 ・ 他言語、異文化、習慣について理解を深める。		
到達目標	・ 保育に関する専門的英単語、会話文を理解し伝えられるようになる。 ・ 保育に必要な基礎的リスニング能力を習得し、会話の中で聞き取れるようになる。 ・ 外国人の子供や保護者、スタッフに対応するための素養を身につけ、保育現場で活かせるようになる。		
評価基準	授業参加姿勢（積極性、協調性、マナー等） 30％、テスト 50％、レポート・課題 20％ を基本配分とする総合評価。		
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 3 以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許		
関連科目			
備考	原則、この授業は対面授業式にて実施する。		
担当教員	渡辺 利恵	実務経験	○
実務内容	英語・英会話講師 24 年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育の英会話について	オリエンテーション
2	保育の英会話への第一歩	はじめに Unit 1: First Step to Childcare English
3	みなと保育園ようこそ	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School
4	時間と数	Unit 3: Time and Numbers
5	地図と道案内	Unit 4: Directions

6	振り返り	振り返り
7	デイヴィーとクラスメイトの出会い	Unit 5: Davy meets his classmate Takashi
8	デイヴィーの登園、降園	Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up
9	保育園での仕事	Unit 7: Jobs at Nursery school
10	昼食	Unit 8: Lunchtime
11	排泄に関する表現	Unit 9: Toilet Dialog
12	けんか	Unit 10: Fighting
13	振り返り	前期試験
14	けがと病気	Unit 11: Injuries and Illnesses
15	電話での応対	Unit 12: Telephone Calls
16	遠足	Unit 13: Field Trip
17	赤ちゃんのケア	Unit 14: Baby Care
18	卒園	Unit 15: Graduation day
19	振り返り	振り返り
20	年間行事：家系図、リスニング	年間園行事予定の英単語、祝祭日・日付の英語での表現。家族の英単語、長文のリスニング
21	折り紙、形を表す英単語、交通手段、乗り物	形・色を表す英単語 英語で折り紙 交通手段と、乗り物に関する単語
22	クリスマス	クリスマスの文化を学ぶ、グリーティングカードのアイデア
23	クリスマス	クリスマスの歌、料理の英語レシピ、単位、
24	英語ミニ知識	異言語・異文化・多文化への理解

25	英会話	電話対応のリスニング練習とメモの記入法、パートナーインタビュー
26	卒園・祝福・記念日	祝福方法や記念日の表現について学ぶ
27	英語の歌	英語の歌の練習
28	英語の歌	英語の歌の練習、発表
29	振り返り	後期試験
30	総まとめ	各項の振り返り

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育原理		
必修選択	必修	(学則表記)	保育原理		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	①『生活事例からはじめる保育原理』5 版 神蔵幸子・宮川萬寿美・中川秋美 ②平成 29 年告示版 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 原本(改訂)		出版社	①青踏社 ②チャイルド本社	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令に基づく制度について学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に則った保育の基本・目標と方法について理解する。また保育の思想と歴史的変遷を学び、保育の現状と課題について考える。				
到達目標	①保育の意義及び目的について理解する。 ②保育に関する法令及び制度を理解する。 ③保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ⑤保育の現状と課題について理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者。成績評価が 3 以上の者。				
関連資格	保育科：保育士資格要件科目 こども総合学科：保育士 こども心理学科：保育士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田 美穂		実務経験	○	
実務内容	保育所 7 年、幼稚園教諭 23 年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	保育を学ぶということ	「保育」とは
2	保育を学ぶということ	保育者に求められていること

3	子ども理解	子どもを理解するとは
4	子ども観・保育観	外国の保育思想に学ぶ
5	子ども観・保育観	日本の保育思想に学ぶ
6	これまでのまとめ	まとめ
7	保育の理念を支える法規	保育の理念を支える法規
8	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能
9	保育の目標と内容	保育の目標と内容
10	保育の目標と内容 保育の方法	「領域」の考え方
11	保育の目標と内容	幼稚園教育要領における保育内容
12	これまでのまとめ	まとめ
13	保育の計画と評価	保育の計画と評価
14	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
15	日本の保育の現状と課題	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題
16	海外の保育事情	海外の保育に関する考え方を学び、様々な保育実践について学ぶ
17	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について学ぶ
18	これまでのまとめ	各回の内容振り返り、理解度確認
19	これまでのまとめ	総復習
20	保育を学ぶということ	「保育」とは 保育者に求められていること
21	子ども理解 子ども観・保育観	子どもを理解するとは 外国・日本の保育思想に学ぶ

22	保育の理念を支える法規 幼稚園・保育所・認定こども園の 制度と機能	保育の理念を支える法規 幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能
23	保育の目標と内容 保育の方法	保育の目標と内容 「領域」の考え方
24	これまでのまとめ	まとめ
25	保育の計画と評価 子どもの育ち・学びの連続性	保育の計画と評価 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
26	保育の計画と評価 子どもの育ち・学びの連続性	保育の計画と評価 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
27	日本の保育の現状と課題 海外の保育事情	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題 海外の保育に関する考え方を学び、様々な保育実践について学ぶ
28	子育て支援	子育ての支援内容、支援対策について学ぶ
29	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について学ぶ
30	年間総復習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会福祉		
必修選択	選択	(学則表記)	社会福祉		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	『生活事例からはじめる 新版社会福祉』(改訂版)		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉における子ども家庭福祉の視点を理解する。社会福祉の制度や実施体制を理解するとともに、相談援助について学ぶとともに、利用者の保護に関わる仕組みについて理解を深める。さらに社会福祉の動向と課題を考察する。		
到達目標	①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ③社会福祉における相談援助について理解する。 ④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者。成績評価が 3 以上の者。		
関連資格	保育科：保育士資格要件科目 こども総合学科：保育士 こども心理学科：保育士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	鈴木 珠世	実務経験	○
実務内容	社会社会福祉施設 7 年（介護士・相談業務） 音楽療法 12 年 カウンセリングオフィスにて心理カウンセラー 2 年 専門学校にて心理カウンセラー 2 年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	年間予定 諸注意
2	社会福祉の歴史の変遷①	社会福祉の取り組みは貧困問題から、海外の貧困問題の歴史的取り組みやその原因について、わが国の篤志家について理解する。
3	社会福祉の歴史の変遷②	防貧対策としての国による福祉の支援方法について、社会資源とは、地域の住民同士の助け合いの歴史的取り組みと現代の取り組みを理解する。

4	社会福祉の理念と課題①	社会福祉とは何か、憲法第 25 条生存権、ノーマライゼーション・インクルージョンの理念について
5	社会福祉の理念と課題②	ニーズとは何か、ニーズの時代的变化、社会参加について理解する。
6	社会福祉の理念と課題③	自立と依存のバランス、社会福祉における平等な支援のあり方について理解する。
7	子ども家庭支援と社会福祉①	家族の暮らす社会を理解し、社会環境に着目する。社会福祉の支援の視点を理解する。
8	子ども家庭支援と社会福祉②	保育の社会化としての現代の地域子育て支援事業の種類を理解する。合計特殊出生率の変遷を理解する。
9	子ども家庭支援と社会福祉③	子どもの人権擁護として『子どもの権利に関する条約』の理念や『国連子どもの権利委員会』を理解する。
10	子ども家庭支援と社会福祉④	児童虐待防止法、オンプズパーソン、施設入所している子どもの権利擁護について、子どもの権利ノートについて理解する。
11	社会福祉にかかわる法律	日本国憲法第 25 条生存権、社会福祉の土台となる社会福祉法、福祉六法について理解する。
12	福祉の政策主体	国の組織、地方公共団体の組織と福祉、社会福祉の財源、地域福祉計画、児童福祉施設の設備運営基準、条約等について理解する。
13	福祉を支える法律	健康やケアに関する法律、障害者に関する法律、暴力からの保護に関する法律、支援者に関する法律について理解する。
14	社会福祉施設	社会福祉法による第 1 種・第 2 種社会福祉事業について理解する。
15	復習とまとめ	これまでのまとめ、復習
16	社会保険制度①	介護保険と医療保険について理解する。
17	社会保険制度②	年金保険・雇用保険・労災保険について理解する。
18	社会福祉の専門職	福祉の実施主体・地域住民による活動・専門職との連携を理解する。
19	社会福祉における利用者の保護に関する仕組み	第三者評価事業・施設内での苦情解決の仕組み・その他権利を擁護する仕組みを理解する。
20	社会福祉における相談援助①	相談援助の理論・意義・機能・対象を理解する。
21	社会福祉における相談援助②	事例を通して個人や家族に対しての相談援助の過程を理解する。
22	社会福祉における相談援助③	事例を通してグループや地域への相談援助の過程を理解する。

23	社会福祉の動向と課題①	少子超高齢社会の進行、地域の変化について理解する。
24	社会福祉の動向と課題②	子ども子育て支援新制度を中心とした少子化対策の展開について理解する。
25	その他の施策①	健やか親子 21、少子化対策プラスワン、少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法などについて理解する。
26	その他の施策②	次世代育成対策推進法における行動計画策定の仕組み、男女共同参画社会と少子化対策としての育児介護休業法、社会手当について理解する。
27	共生社会の実現と障害者施策①	高齢社会を支える施策として介護保険法・老人福祉法を理解する。
28	共生社会の実現と障害者施策②	障害者を支える施策として障害者基本法・障害者総合支援法・障害者の権利条約・障害者差別解消法の合理的配慮を理解する。
29	他職種との連携とネットワーク	福祉の実施主体・地域住民による活動・専門職との連携を理解する。
30	復習とまとめ	これまでのまとめ、復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	実践につながる新しい保育の心理学			出版社	ミネルヴァ書房

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で関わる年齢期に応じた子どもの心理と身体のあり方、およびその成長・発達について学んでいく		
到達目標	・ 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる ・ 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者。成績評価が 3 以上の者。		
関連資格	保育士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	王 怡	実務経験	○
実務内容	札幌花園病院心理士として 6 年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について 保育の心理学とは
2	子どもの発達を理解することの意義	発達心理学とは 現代社会が抱える子どもの問題
3	子どもの発達と環境	各発達理論・説について
4	子ども観・保育観と発達理論からの視点	子ども観と保育観 ボウルビィの理論とハーロウの実験
5	社会的情動	基本的信頼感の形成 愛着理論

6	身体能力と運動機能の発達	発育・発達の原理原則
7	認知の発達	ピアジェの発達理論
8	言語の発達	言語・コミュニケーションの発達
9	アセスメント	障害と各種検査
10	発達段階 ①	0・1・2 歳の発達
11	発達段階 ②	3・4・5 歳の発達
12	発達段階 ③	学童期の発達
13	発達段階 ④総まとめ ①	青年期の発達
14	発達段階 ⑤	成人期から老年期までの発達
15	総まとめ ①	振り返り 解説
16	乳幼児期の学びに関する理論	学習理論
17	遊びの理論 ①	乳幼児期の学び(遊び)の過程と特性
18	遊びの理論 ②	乳幼児期の学び(遊び)を支える保育
19	子どもの発達と遊びの関係 ①	遊びと生活習慣形成
20	子どもの発達と遊びの関係 ②	幼児教育において育みたい資質・能力の整理
21	学習心理学 ①	行動を身につけるということ ①
22	学習心理学 ②	行動を身につけるということ ②
23	留意の必要な子どもの保育 ①	サポートの必要な子どもと家族の心理
24	留意の必要な子どもの保育 ②	サポートの必要な子どもと家族へのアプローチ ①

25	留意の必要な子どもの保育 ③	サポートの必要な子どもと家族へのアプローチ ②
26	生涯発達を見据えた発達支援	生涯発達とは
27	各発達段階における対応 ①	発達を踏まえた声かけを考える ①
28	各発達段階における対応 ②	発達を踏まえた声かけを考える ②
29	発達を支援するということ	保育者は何のために子ども支援を行うのか
30	総まとめ ②	振り返り 解説

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの食と栄養Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの食と栄養Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	子どもの食と栄養		出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	子どもたちの理想的な発育ため、健康的な身体をつくるための保育に関わる”食”の知識、一般的な栄養の知識を身につける。				
到達目標	・健全な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎知識を身につける。 ・子どもの発育/発達と食生活の関連について理解する。 ・養護および教育の教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義/目的、基本的な考え方、その内容について理解し指導できる力を身につける。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者。成績評価が 3 以上の者。				
関連資格	保育士				
関連科目	子どもの食と栄養Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	植田 唯		実務経験	○	
実務内容	管理栄養士として老人保健施設 8 年、特定保健指導 2 年。その他保育園給食レシピ作成、健康セミナーなど乳幼児期から高齢期までのあらゆるライフステージにおいて食と栄養をサポートする専門職として活動中。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	第 1 章 子どもの健康と食生活の意義①	乳幼児の食生活の現状
3	第 1 章 子どもの健康と食生活の意義②	子どもの食生活の問題・朝食欠食
4	第 1 章 子どもの健康と食生活の意義③	子どもの食生活の問題・孤食・子食
5	第 1 章 子どもの健康と食生活の意義④	子どもの食生活の問題・偏食

6	第 1 章 子どもの健康と食生活の意義⑤	乳幼児の栄養アセスメント
7	第 1 章 子どもの健康と食生活の意義⑥	第 1 章のコラム・エクササイズを利用したワーク
8	第 1 章 確認テスト	第 1 章に関する筆記テストを実施し、理解度を確認する
9	第 2 章 栄養に関する基礎知識①	消化器系の構造と機能・栄養の基礎知識
10	第 2 章 栄養に関する基礎知識②	三大栄養素-糖質-
11	第 2 章 栄養に関する基礎知識③	三大栄養素-脂質-
12	第 2 章 栄養に関する基礎知識④	三大栄養素-たんぱく質-
13	第 2 章 栄養に関する基礎知識⑤	ビタミン
14	第 2 章 栄養に関する基礎知識⑥	ミネラル
15	第 2 章 栄養に関する基礎知識⑦	食物繊維と水
16	第 2 章 栄養に関する基礎知識⑧	第 2 章のコラム・エクササイズを利用したワーク
17	第 2 章 確認テスト	第 2 章に関する筆記テストを実施し、理解度を確認する
18	第 3 章 栄養に関する基礎知識①	日本人の食事摂取基準の意義
19	第 3 章 栄養に関する基礎知識②	対象特性による食事摂取基準①・妊娠・授乳婦
20	第 3 章 栄養に関する基礎知識③	対象特性による食事摂取基準②・乳児期～思春期の食事摂取基準
21	第 3 章 栄養に関する基礎知識④	献立作成と調理の基本
22	第 3 章 栄養に関する基礎知識⑤	食品表示に関する知識
23	第 3 章 確認テスト	第 3 章に関する筆記テストを実施し、理解度を確認する
24	第 4 章 子どもの発育・発達と食生活①	乳幼児の機能の発達と食事提供

25	第 4 章 子どもの発育・発達と食生活②	乳児期栄養①・乳汁栄養
26	第 4 章 子どもの発育・発達と食生活③	乳児期栄養②・離乳食栄養
27	第 4 章 子どもの発育・発達と食生活④	幼児期栄養
28	第 4 章 子どもの発育・発達と食生活⑤	学童期栄養・第 4 章のコラム・エクササイズを利用したワーク
29	第 4 章 確認テスト	第 4 章に関する筆記テストを実施し、理解度を確認する
30	総まとめ	これまでの振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	健康		
必修選択	選択	(学則表記)	健康		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	『健やかな育ちを支える 領域「健康」』		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解する。 2.乳幼児の健康の諸問題について子どもたちが自ら学び、考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導のあり方について学ぶ。 3.保育活動における健康教育について学ぶ。		
到達目標	1．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 4．保育の多様な展開について具体的に理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者。成績評価が 3 以上の者。		
関連資格			
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	鷺野 良仁	実務経験	○
実務内容	保育園 8 年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて
2	【第 1 章】幼児と健康	幼稚園教育要領等における「健康」のねらいや内容について学ぶ。
3	【第 2 章】発育・発達	発育、発達、成長の特徴と違いを理解し説明できるようにする。

4	【第 3 章】運動	運動機能の発達過程および運動遊びの意義について理解する。
5	【第 4 章】生活習慣	基本的生活習慣とその意義について学ぶ。
6	学びの振り返り	第 1 章～第 4 章の振り返り
7	【第 5 章】食育	生涯を健康に過ごすために必要な食育の基本を理解する。
8	【第 6 章】幼児の保健	保育現場の保健に関する知識を学ぶ。
9	【第 7 章】保育における安全管理	保育現場の安全管理について学ぶ。
10	【第 8 章】現代的課題	領域「健康」に関する現代的課題と保育者の役割について学ぶ
11	領域「健康」のねらいと内容①	幼稚園教育要領にある「健康のねらい・内容・内容の取り扱い」について理解する。
12	領域「健康」のねらいと内容②	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある「健康のねらい及び内容」について理解する。
13	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼稚園教育要領にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。
14	前期の振り返り①	前期内容のまとめ
15	前期の振り返り①	前期内容の解説
16	子どもの発達①	乳幼児期を通しての心身の発達について理解する。
17	子どもの運動①	乳幼児期を通しての運動能力の発達について学び 運動能力を低下させた原因、最近の子どもたちの現状について理解する。
18	子どもの生活習慣①	基本的生活習慣に関わる子どもの発達や具体的な内容について理解する。
19	子どもの生活習慣②	園における基本的生活習慣を促す援助について学ぶ。
20	子どもの食育①	子どもの食生活の現状について学ぶ
21	子どもの食育②	食物アレルギーについての知識や対応を学ぶ
22	子どもの食育③	子どもの食育について理解する。

23	子どもの保健①	保育における健康管理の重要性を理解する。
24	子どもの保健②	保育者として身につけておきたい応急処置方法を学ぶ
25	子どもの保健②	応急処置法の手順やエビペンの使い方を知る
26	子どもの安全管理①	園内での事故事例を知り、安全教育について理解する。
27	子どもの安全管理②	園内外での事故や災害事例を知り、安全教育について学ぶ。
28	保育の現代的課題	現在社会における園や保育者に求められることについて理解する。
29	後期の振り返り	後期内容のまとめ
30	1 年の振り返り	子どもの健康を支え育む保育者の役割について自身の考えを整理する。